

★ 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ) 情報

越冬量が丹後地域でやや多い状況です

今後の発生動向に注意して下さい

(越冬状況)

- ①本年2月に実施したチャバネアオカメムシ成虫(写真1)の越冬調査において、越冬量は、**丹後地域**で過去5年間で最も多い平成22年に次いで多い値でありました(**例年比やや多い、表1**)。一方、京都市、南丹地域では、チャバネアオカメムシの越冬成虫は確認されませんでした(例年並、表2)。
- ②本年、秋田県、福岡県、茨城県、山口県、長崎県、熊本県、三重県から果樹カメムシ類の越冬量が多いと報告されており、本府でも①のような越冬量であることから、今後の発生動向に注意が必要です。
- ③また、本年のスギ、ヒノキの花粉量は、平年並または平年比やや少ないと予想されている(環境省1月)ことから、果樹カメムシ類の主要な餌であるスギ、ヒノキの球果の結実量も平年並または平年比やや少ないと予想され、果樹カメムシ類が果樹園へ飛来する可能性はさらに高まると考えられます。



写真1 越冬調査で見つかったチャバネアオカメムシの成虫

(防除上の注意事項)

- ①被害は、園による差が大きく、また、園の周囲で多くなるなど多様です。園内外の成虫の発生状況などを常に観察し、飛来を認めたら防除して下さい。**特に、山林等の隣接園では注意が必要です。**
- ②カメムシは夜行性であり、夕方の防除が有効です。
- ③合成ピレスロイド剤の連用は、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので避けて下さい。
- ④防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守して下さい。

表1 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ)越冬量調査(丹後地域、平成24年2月)*

調査年	平均生存虫数 (頭/地点)	個体確認地点率 (%)**
H24 (発生量)	0.50 (例年比やや多い)	50.0
例年	0.24	28.0
H23	0.20	40.0
H22	0.80	60.0
H21	0.00	20.0
H20	0.20	20.0
H19	0.00	0.0

*調査地点:京丹後市久美浜町4か所、同市網野町2か所
**死虫のみの確認地点も含む

表2 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ)越冬量調査(京都市、南丹地域、平成24年2月)*

調査年	平均生存虫数 (頭/地点)	個体確認地点率 (%)**
H24 (発生量)	0.00	0.0
例年	0.27	28.3
H23	0.25	20.0
H22	1.40	60.0
H21	0.25	25.0
H20	0.00	25.0
H19	0.00	25.0
H18	0.00	0.0
H17	0.00	0.0
H16	0.50	50.0
H15	0.00	50.0

*調査地点:京都市右京区2か所、亀岡市1か所、南丹市2か所
**死虫のみの確認地点も含む